ゴミの最終処分場について

質問　最終処分場の寿命、能力について伺いたい。

答弁　現在稼動している十和田地域広域事務組合の最終処分場の埋め立て可能残存年数は、五戸第二最終処分場と十和田最終処分場を合わせて、約八年と聞いている。このため、現在事務組合にて今後の最終処分場について検討しているが、整備に向けた考え方としては、新設、西大沼平最終処分場の再生、新たな最終処分場を設けず、焼却灰をセメントの材料として民間セメント会社への委託処理の三つを検討している。

十和田最終処分場（H20.8月撮影）

沢田小学校への仲よし会設置について

質問　地域から根強い要望があるが、沢田小学校への仲よし会設置について伺いたい。

答弁　地域の保護者から仲よし会設置の要望を受けて、今年五月に沢田小学校学区のゼロ歳から六歳までの児童のいる世帯に対してアンケート調査を実施したところ、回答者三十五世帯のうち八〇％の方々から利用したいとの意向を受けた。

　現在、沢田小学校の一、二年生の在籍数は十八名で、今後五年間の同小学校への入学見込み児童数からしても、当市の仲よし会設置基準である長期にわたり十名以上の児童の入所が見込めるとの判断から、今後仲よし会の開設に向けて検討していく。

新型インフルエンザについて

質問　新型インフルエンザに対しての中央病院の対応と、治療薬のタミフル、リレンザの備蓄状況について伺いたい。

答弁　当院においては、おおむね国、県からの情報、通知等に基づき、新型インフルエンザの封じ込めと、本館への侵入を阻止するための対応をとっている。当院は第二種感染症指定医療機関として感染症病床は四床あり、新型インフルエンザに対応したマニュアルを作成し、現在はそれに基づいて行動している。

　また、治療薬の在庫状況については、六月五日現在、タミフルは五百カプセル、リレンザは四人分あり、現時点では充足している。

中央病院の感染症病床

生ゴミの資源化について

質問　生ゴミを資源化する施策の推進について伺いたい。

答弁　市民生活から排出される生ごみを堆肥化し、有機質肥料として農地へ還元することは、限りある資源の有効利用が図られるほか、化学肥料の節減にもつながり、環境への負荷の低減に配慮した循環型農業の形成にも大きな役割を果たすことになると認識している。

　一方で、堆肥化するには、コンポスト施設の整備のほか、生ごみの徹底した分別や分別区分の変更に伴う改修コスト、さらには製造した堆肥をいかに売るか等、さまざまな角度からの検討が必要になるため、関係機関、団体等の意見も聞きながら、その可否を見極めていきたい。

介護予防について

質問　湯っこの会の利用状況と費用対効果について伺いたい。

答弁　湯っこで生き生き交流事業は、高齢者の交流と元気づくりを目的に、週一回温泉に無料バスで送迎し、介護予防のための体操やレクリエーションを行う事業である。平成二十一年六月一日現在、七百五十八名が利用登録している。利用状況については、平成二十年度は、年間五百四十三回実施し、延べ一万五千九百二十一名の利用者となっている。

　また、費用対効果については、要支援、要介護一の介護保険認定者数から見ると、事業開始前の平成十七年度の一千二百九十八名から平成二十年度は八百九十九名に減少していることから、この事業による介護認定を受けなくてもよい元気な高齢者が増え、介護予防のための費用対効果は十分あると考えている。

湯っこで生き生き交流事業の１コマより

食育推進計画について

質問　当市の食育推進計画の具体的な推進策とその特徴について伺いたい。

答弁　十和田市食育推進計画は、平成二十年三月に策定し、五年後に見直しをすることとしている。具体的な推進策の特徴の一つ目は、家庭における食育が極めて重要であることから、毎月第三日曜日を家族でまんまの日と定め、家族のぬくもりやきずなを深める日と位置づけ、市広報や市の封筒に掲載し、スローガンとして推進している。

　二つ目は、子供の頃からの生活習慣は生涯にわたって影響するため、乳幼児、学童、生徒や保護者を対象に、早寝早起き朝ごはんの励行について、保育園、学校等と連携し、機会あるごとに周知し、実践のために取り組んでいる。

　三つ目は、十和田市版食事バランスガイドの普及により、郷土料理、伝統料理を伝承しながら、地産地消の推進を図っている。